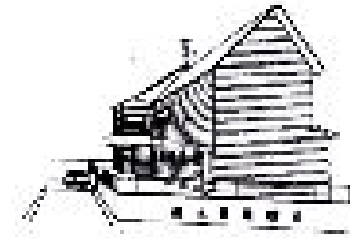


週報

2009年 3月 15日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト
清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル公会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885
静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26
☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp

今朝の聖書から “蝙蝠(こうもり)のような存在”という言葉があります。昔、鳥と獣が争ったことがあって、そのとき蝙蝠は、獣の前では“私は鼠だ”と言い、鳥の前では翼を広げて見せて“私は鳥だ”と言いました。けれど仲直りができた時、蝙蝠の居場所がなかった、という戒めのような物語です。この童話の喩が、今朝の聖書の個所にも当てはまります。“私はクリスチャン、御言葉に従う”と言ってはいても、諸般の利害勘定からみて、信仰のことは言わない方が“今は得”と思った時には“私は協調を重んじる常識人”になることってないでしょうか。イエス様は、救いの道と、救われない道の間、このような曖昧な立場はないと、ここで教えておられます。“人には、その犯すすべての罪も神を汚す言葉も、ゆるされる。”とあります(12:31)。ペテロも三回“あの人のことは知らない”と言いました。けれど“呪われよ”とは言いませんでした。しかし本心(御霊)において、両方の良いところを得よう、という生き方は、そもそもできないのです。もう一度簡単なことを思い出しましょう。人はクリスチャンであるか、そうでないかのどちらかなのです。そして私たちはクリスチャンなのではないでしょうか。クリスチャンでないかのように振舞おうと思ったとしても、そこからは何も得られないことに気付くでしょう。“神の国はすでにあなたがたのところに来たのである(12:28)”ことを体験している信仰者なのです。今朝のベルゼブル論争といわれる箇所ですが、主の良い業を見たパリサイ派の人々は、“確かに良いわざはした、それは魔術を行う悪の頭ベルゼブルにより頼んでのことである”と言うのです。救いの業を認めても、受け入れることができない、こんな悲しい事態にパリサイ派の人々は陥っていました。“聖霊に対して言い逆らう者は、この世でも、きたるべき世でも、ゆるされることはない(12:32)”とイエス様は教えられます。事態がひっ迫するにつれ、“わたしの味方でない者は、わたしに反対するものであり、わたしと共に集めない者は、散らすものである(12:30)”ということがはっきりする時が来るのです。御霊に逆らわないで生きましょう。